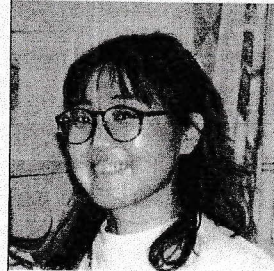


同窓生シリーズ

(34)



第40回生 加藤 且実

鍼灸按摩マッサージ指圧師
新宿高校卒業後、日本大学農獣医
学部中退。東京衛生学園専門学校
卒業時、鍼師、灸師、按摩マッ
サージ指圧師免許取得。天津中医学
院第一附属医院にて臨床実習。現
在、大田区にある東海渡井クリニ
ックにて勤務。

『十年』

今度の三月で卒業して十年になります。先日、現役の一年生との話から、半支が同じで上履きの色も同じ青色だと聞きました。青・黄・赤の持ち回りの学年色は変わっていないとのことですが、生徒数や男女の割合は変わっているようで、いろいろな面で変化があるのでしょう。私の学年はまだ元男子校の名残りから、男子が女子の二倍ほどいて、女子は大切に扱われていたりしました。行事もとても多

く、いつもその準備に追われ、本当に楽しいことばかりの時間は無茶苦茶に充実していました。だんだん将来について考えなくてはならなくなってきたとき、私の頭の中に、勉強したいことはあっても、将来の職業については何もまとまりませんでした。大学を受験して、一浪までしても納得のいかないままです。疑問を持たずに大学生活を送ればそういう流れもあったでしょうが、私は、大学を辞めました。辞めるとき、先ず自分自

身について考えました。自分はどんな性格のどんな人間なのか。嫌な部分もよい部分も、自分では認めたくないことも誇りに思えることもありましたが、それらを活用するべきで、そのための勉強をしたいと思います。そこで、東洋医学の鍼灸按摩マッサージ指圧師の資格の専門学校へ行きました。

私がこの資格を取得した年は、国家試験になった一年目でした（それまでは都道府県知事免許でした）。合格するまでにかなり苦労しましたが、本当に努力しなければならぬのは卒業した後だ、ということをよく知

っていました。それは両親が技術職だったからだと思います。建築学科を出て建築設計事務所を開いている二人は、修行する者の心構えについて私が小さい頃から黙って示してくれていたようでした。学生の頃から何人かの先生のところへ勉強させていただいたり、まったくの異業種のアルバイトもしました。何をしても全てのことが私の興味の対象でしたし、治療家にとってプラスとなることが多くありました。様々な場面の様々なことが、決して損や無駄ではなく、すべてが誰のものでもない私自身の貴重な体験だと思えましたし、今もそう思っています。

しかし、最も必要な技術面での経験についてはまだまだ充分ではないので、先ずは本当の原点に返るべきではないかと思

今の日本で、自分をいかに活用するか、心と身体の全体的なケアや、私が女であるからこそできることなど、課題は多々あります。しかし、今、気がついていないことは、そんな表面的なことより前に、学生のころ剣道の師に習った『守・破・離』という言葉が、この世界にも必要だと言うことです。師の教えを守り学び、自分の道を見つめるべく努力し、師を離れて世界を広げ伝えてゆく、とても大変なことですが、今はまだ沢山の師に学び、『加藤且実流』の材料を収拾している真つ最中ですが、一生勉強です。でも好きなことは楽しくて仕方がないのです。高校を卒業してからの十年は波瀾万丈でしたが、これからの十年はどうなっていくのか、自分自身、十年後が楽しみです。